

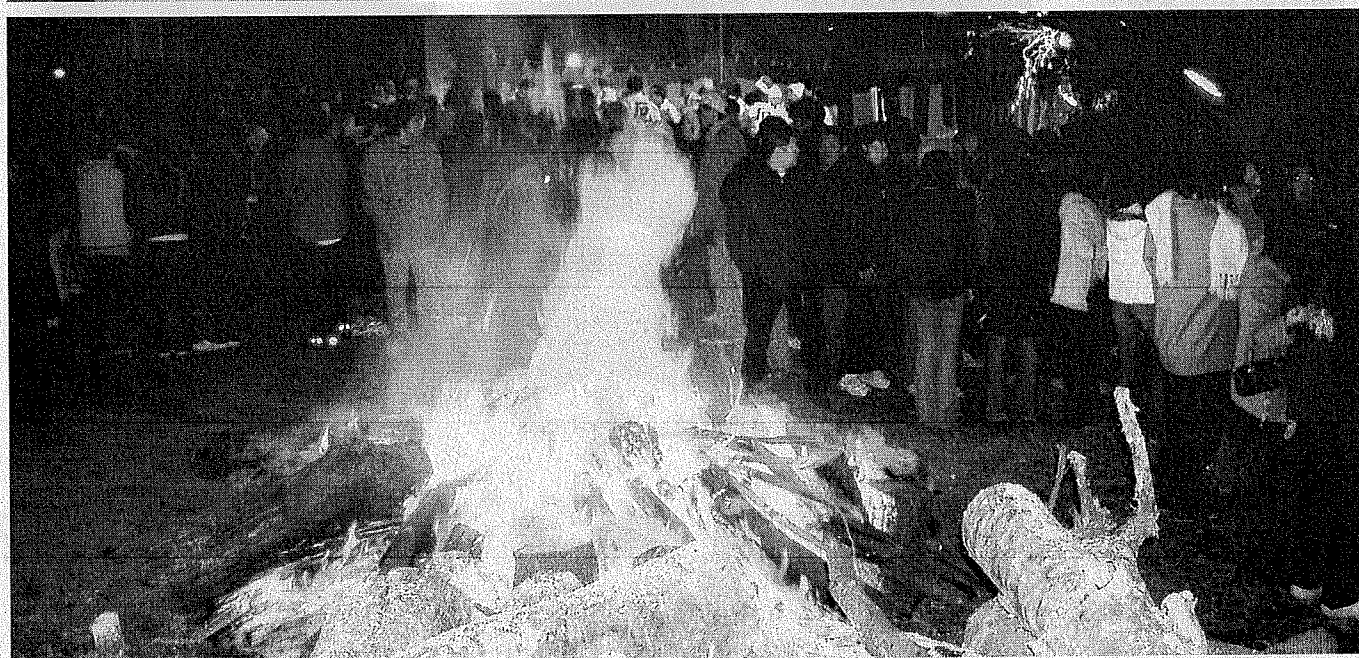
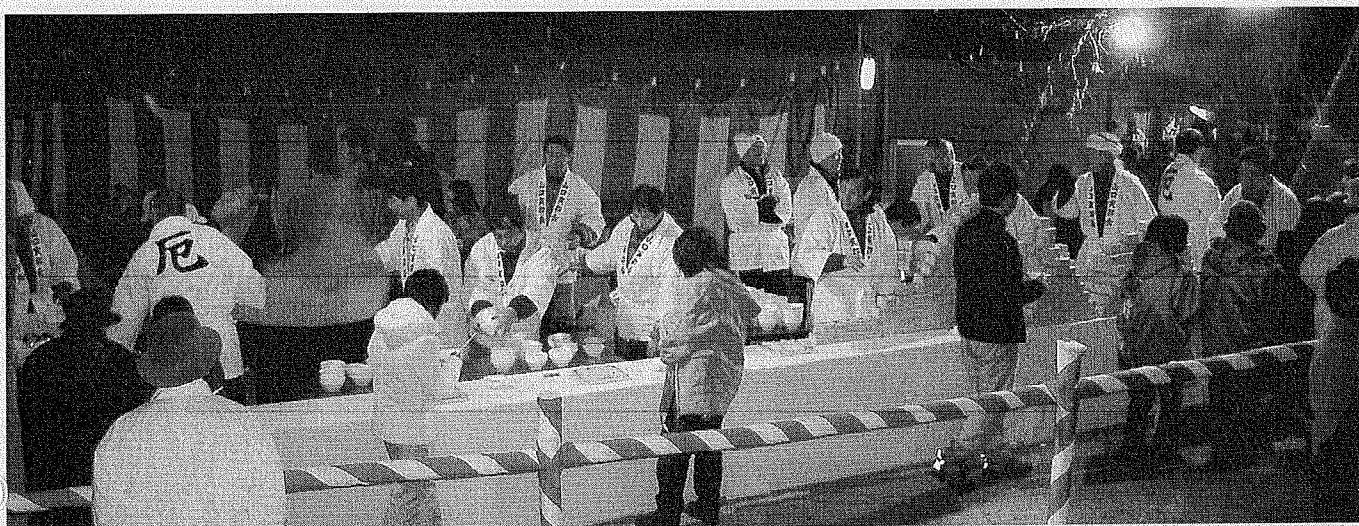
YAMAGUCHI

やまぐち

平成15年2月17日
編集・発行 広報やまぐち編集部

大晦日 ～行く年 来る年～

山口八幡社では、12月31日午後11時50分ごろには、初詣を待つ人々で境内には長蛇の列ができました。また、境内では毎年恒例となっている焚き火や、厄年を迎える人達による振舞い酒（樽酒）などが1月1日午前0時にスタートしました。0時の時報とともに参拝者は一斉に思い思いの願いを込め参拝を開始し、また、焚き火で暖をとる人や振舞い酒（杓酒）をいただく人々で、境内は多くの人で賑わっていました。

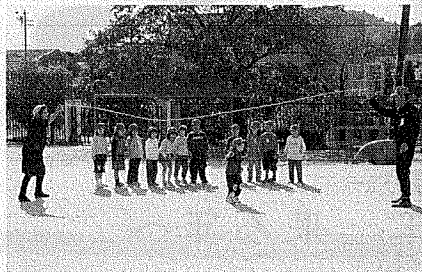


社会福祉協議会山口地区社協 活動報告

やまぐちの福祉
第17号
瀬戸市社会福祉協議会
山口地区社協

老人と園児のふれあい会

- 11月7日(木)
- 午前9時30分～
- 幡山東保育園
- 参加者 老人26人



回す人も、とぶ人も上手!!



一緒に食べるとおいしいね

老人と園児が一緒になって、いろいろな遊びをしたり、昼食も一緒に楽しみました。

配食サービス 2回目

- 11月7日(木)
- 希望者 41名

歳末たすけあい事業

《おせち料理の配食》

ひとり暮らしの高齢者対象

- 希望者 47名

イベント「やまぐち 2002 冬」

《大鍋会》

12月22日(日)に自治会、公民館、まちづくり協議会、幡山東小学校PTAなどとともに、山口公民館グラウンドでイベントをおこない、小さいお子さんから、年配の方まで多くの参加をいただきました。

山口地区社協は『豚汁』と『ぜんざい』を担当しました。

2005年国際博覧会開催まで、各団体とともに継続していく計画です。



ぜんざいに入れるモチを焼いています



あったかいぜんざい
おあがりください

共同募金

- 大口募金(共同募金)にご協力くださり、ありがとうございました。
今年度の募金額は167,000円になりました。



日時 平成 15 年 3 月 1 日 (土)

開場・・・午前 9 時 30 分～ 開演・・・午前 10 時～ 11 時 30 分

場所 山口 (北) 憩いの家 1 階和室

作品 『トラックとらすけ』 『イヌとイスのバラード』

・小学校低学年以下対象 ・先着 120 名まで入場できます

こどもとおとなと一緒に、楽しいひとときを過ごしていただきたいと思い

「人形劇団ちんどん」の人形劇を上演します。

みなさんの参加をお待ちしています。

※入場は無料！

「介護保険」に ついての研修会のご案内

開催日時：平成 15 年 2 月 21 日 (金)
午後 7 時 30 分～

研修内容：「介護保険」について
後半に質疑応答時間
をもうけます。

開催場所：山口 (北) 憩いの家

講師：瀬戸市社会福祉協議会
飯田 とみ代氏



やまぐち『親子ふれあい広場』のご案内

今年度 6 回開催しました、「親子ふれあい広場」は、毎回平均して 20 組の親子の参加がありました。
来年度もみなさんのお声に応えられるよう、開催する予定です。

幡山学区青少年育成会からのお知らせ

・・・環境の大切さ・・・

朝食を食べないこどもや煙草を吸うこどもは、非行に陥りやすいと言われて久しい。しっかり分析をしたわけではないが、朝食に関しては親に多くの責任があり、喫煙に関しては本人に多大な責任がある。

このことを、両者が余り自覚していないところに悲劇が潜んでいる。

喫煙に関しては、筆者にも経験がある。中学生時代に友人が、半ば英雄気取りで煙草を吸い始めた、「お前が吸うなら、俺は吸わん」と本人も半ば英雄気取りかも。今になって、吸った方が良かったのか悪かったのかよく解らないが、意地を張り通したのは事実でした。

非行を侵した少年の内、喫煙経験者は実に 7 割近くに上がるという。自我が目覚めた頃、自我が始まった頃の環境は、一生を左右することが多い。

いつも言われ続けていることですが、親も本人も、そして地域のみんなも青少年に良い環境を与える努力をしたいものです。

わが町、幡山地区は犯罪激増地区なのです。



「花シティ」

どんなサークルかな？

設立当時から参加されている屋戸町の山田典子さんに取材しました。

Q 花シティ山口ができてどのくらいになりますか？

A 平成12年5月14日が誕生日で、ひよっ子で～す。

Q 山田さんご自身が花シティに参加しようと思ったきっかけは？

A 主人の勧めで参加しました。

Q 道路脇などで「花シティ山口」のかわいい看板を見かけますが、今現在どのような活動をしていますか？

A 愛知環状鉄道山口駅前の花壇の手入れを主に、町内グループによる街角花作りをしています。

Q 現在の会員数は？

A 男性11名、女性20名の計31名で、20代から70代までの素敵な方ばかりです。

Q 今までの活動の中で、楽しかったことや大変だったことは？



町内グループによる街角花作り

A 楽しかったことは、苔玉作り、ハンキングバスケット講習会や東海テレビ「中部がげんき」でテレビデビューです。苦しかったことは、植栽後の水やりや春から秋までの草取り作業。

Q これからどんな活動をしていきたいですか？また何か目標はありますか？

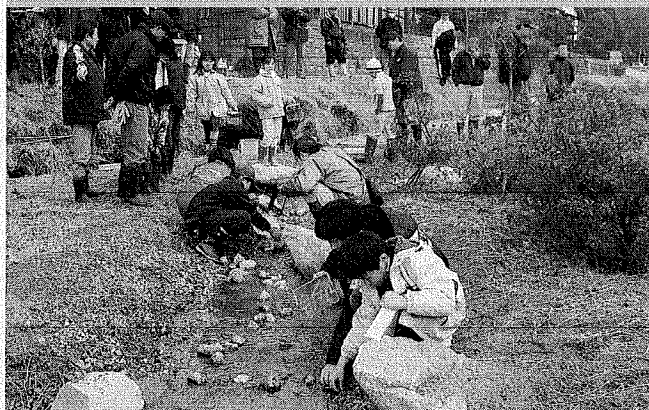
A 花シティから種がこぼれて、山口地域を花でいっぱいにして、華やかで癒される町になったらいいな～と思っています。またEXPO市民参加への登録も考えています。

Q 花シティ山口の会員になりたい人は、どのようにしたらいいですか？

A 入会はいつでもOKです。ただし、年会費の500円が必要です。

連絡先は、中川（21-8966）、金谷（83-4255）、山田（21-2947）までお願いします。

入会のきっかけが“花が好き”で集まった人達で、本当に素敵な仲間作りをしてみえます。苦を楽にしてしまうのも、みなさんの心意気からではないでしょうか。



ほたるの寒中お引越し

2月26日(日)吉野町地内における吉野3号線の拡張工事に伴い、ほたるが毎年たくさん飛んでいた側溝がなくなってしまうので、そこに生息しているほたるを環境水田に引越しさせました。当日は曇り空で寒かったのですが、協議会員の山田勝さんをはじめとした「山口ホタル研究会」のみなさんを中心に、たくさんの小学生と父兄

竹の切り出し

竹林整備を兼ねた竹の切り出しを1月19日(日)の午前中に行いました。この切り出しは4月19日(土)・20日(日)に予定しています竹炭焼きの材料にするためのものです。まちづくり協議会が竹炭焼きに初挑戦したのは、平成12年の夏に海上の森で行われました「やまぐち2000」で、その時は地面に穴を掘り、そこに割った竹を縦に並べて焼成したものでした。現在では、ドラム缶を横にして、その中に割った竹を入れ、その上に土を被せて焼成する方法で行っています。

切り出しの当日は、20人余の協議会員が吉野町の竹林に入り、竹切り、運び出し、切断、節抜き、竹割りなどを分担し、約2時間の作業でドラム缶6本分の材料を作りました。切り出し作業は、結構大変な作業でしたが、見事に焼き上がった竹炭を見るのを楽しみに、参加者はいい汗をかきながらの作業でした。



里

山

活

動



やまぐち2002

竹炭焼き

平成14年12月22日(日)正午から、山口公民館グラウンドで開催されました「やまぐち2002」にまちづくり協議会も参加し、「竹炭焼き」「焼き芋」「史跡散策」を担当しました。

竹炭焼きは、ドラム缶1基を使用し21日(土)の雨が降りしきる中、火入れを行いました。当日は参加者が見守る中、見事に焼けた竹炭を取り出す作業を行い、引き続き1窯焼くための一連の作業を行いました。

前日は窯の上に被せた土に雨がかり、中々温度が上がらず焼き加減が窯を開けるまで心配でしたが、見事な焼き上がりで一同ほっとしました。出来上がった竹炭は、やまぐち2002の参加者に配布しました。

の方が参加してくださり、ニッケ環境システムの指導で、ほととカワニナの採取と移植が行われました。側溝の泥をすくってバットの中で水洗いをする、びっくりして丸まったほととの幼虫がフワフワ浮かんできて、まるで宝探しのように“楽しいね”と寒いのも忘れて子供も大人もがんばりました。結果60匹以上の幼虫と500以上のカワニナを移植させることができました。京都大学生態学研究センター助教授の遊

磨先生も駆けつけていただき、講評をしてくださいました。初夏には元気に飛んでほしいとその場にいる誰もが願っていました。



やまぐち 2002 冬

教養部長 鈴木 慎一

2002年12月22日に山口公民館にて各種団体との共催で〈2002冬〉と題して冬のイベントが行われました。

物作り、史跡散策、大なべ、餅つき、焼き芋、

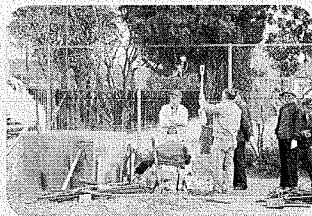
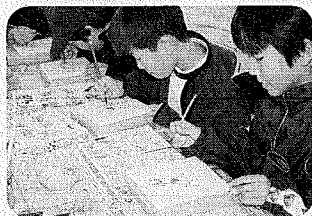
幡山東小5、6年生によるハンドベル演奏など色々な内容で皆さんに楽しんで頂けたと思います。

物作りでは普段家庭では作ることのないわら細工、竹細工、リース、ミニ門松の4つに分かれて悪戦苦闘しながらもなかなかの出来栄えだったようです。

最後は恒例のビンゴ大会で締めくくりました。

前日の雨でイベントが行えるか心配でしたが皆様の協力が無事に終えることができました。

2002年を皮切りに2005年へ向けてますます盛大になる様がんばって行きたいです。



ヨイショー
上手につけてる
かな？



物凄い音と炎の瞬間



親子で凧作り



「ハンドベル演奏は、5～6年生25名。指導は保護者の方々でした。4回の練習は大変集中し、すばらしい出来栄えとなりました。」

成人式

山田 亜紀

今年の成人式も、新成人が式の企画運営に参加し、本年より増築された公民館で式を挙げることができました。懐かしい恩師の先生方にも、お会いすることができ、私達の成長した姿を見

ていただくことができたと思います。

そして、私達の提案した「小学校時代の給食が食べたい」という企画を実現していただきとても感謝しています。和気藹々のうちに懇親会も終了し、思い出に残る良い式となりました。式を運営していただきました関係団体・委員の皆様へ感謝し、社会人として立派に成長していきます。



むつみ先生の絵手紙教室

若宮町 山田 君子

昼の部は、女性ばかりの18名です。

夜の部は、女性ばかりの10名です。

かぼちゃ、柿、花瓶、椎茸・・・題材を見つける目はみんな真剣です。一人ひとりに気軽に

ていねいに添削してくださる先生は、2時間余りを休憩なしの引っ張りダコ...先生の魔法の手にかかると、薄っぺらだった絵がたちまち深みと奥行きのある味わいある見事な作品に変身します。家で何枚も描いてきた人、色の変化を一覧表にした人、先生と同じ筆を買いに走った人・・・やる気満々の嬉しい楽しいひとときでした。先生特製の落款（発泡スチロールに油性ペンで書く）が作品を引き立てています。作品展もみんなとても楽しみにしています。

私の絵手紙は今、嬉しい悲鳴をあげながら友人へ知人へ孫へと大活躍の毎日です。すばらしい機会をありがとうございました。



山口ソフトボール愛好会 NEWS

平成14年度リーグ戦を9チーム総当たりで前期と後期に分けて開催しました。前期は上之山町チームが、後期は若宮町チームがそれぞれ8勝全勝で優勝しました。

また、個人賞は、ホームラン王に坂直人選手（若宮町）が10本で2年連続受賞し、最優秀投手賞は山内誉選手（トレジャー）が10勝で初受賞をしました。

山口ソフトボール愛好会各チームでは、クラブ員を募集しています。年齢層は10代から70代までの幅広い年齢層で楽しく試合をしています。是非、気軽に参加してください。

平成14年度 山口ソフトボール愛好会リーグ戦結果

順位	前 期				後 期			
	チーム名	勝	負	得失点差	チーム名	勝	負	得失点差
1	上之山町	8	0	69	若 宮 町	8	0	77
2	若 宮 町	7	1	55	トレジャー	7	1	79
3	池 田 町	4	4	23	上之山町	5	3	15
4	トレジャー	4	4	16	池 田 町	5	3	12
5	八 幡 町	4	4	-13	八 幡 町	4	4	26
6	山 口 町	3	5	-9	石 田 町	3	5	-26
7	石 田 町	3	5	-24	ビアーズ	2	6	-24
8	宝ヶ丘町	3	5	-37	山 口 町	1	7	-45
9	ビアーズ	0	8	-80	宝ヶ丘町	1	7	-114



後期優勝の
若宮町チーム

心肺蘇生法の輪

瀬戸市消防署南分署救急救命士 山田 昌彦

もしも皆さんのご家族や大切な方が急に倒れたら、皆さんはどうしますか。山口の消防署から救急車がすぐに来てくれるから安心だと思っていませんか。

でも救急車が皆さんのところへ到着するのは早くて4分。実はこの4分間に適切な応急手当がされたかどうかが生死を決める場合があります。

適切な応急手当とは心肺蘇生法のことで、これは心臓マッサージと人工呼吸を併せて行う方法です。一家に一人、そしてどこにいても生死の境で、心肺蘇生法が受けられる安全な町『山口』、これを実現したいと思っています。

ぜひ皆様方のお力添えで、心肺蘇生法の輪を広げていただき、安心して住める町を作りましょう。余談ですが、この講習会はけっこう評判がいいようです。皆さん楽しみながら受講してください。詳しくは消防署まで是非お問い合わせください。



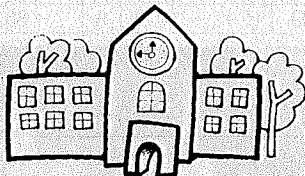
真剣な表情で学んでいます

≡≡≡ 幡山東小学校PTAより ≡≡≡

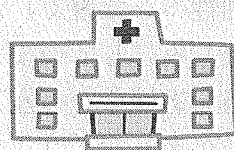
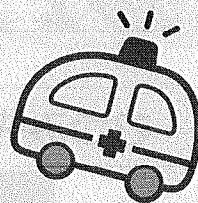
3月8日(土)9時30分より廃品回収をおこないます。前回同様ご協力お願いします。ベルマークも集めています。併せてお願いします。

6年生が思い出を胸に詰め込んで卒業します。広報「はたとう」110号は、卒業特集です。公民館、憩いの家に配布させていただきますので、是非ご覧ください。3月19日発行予定です。

万博関連の工事車両の増加が予想されます。こどもたちの安全確保にご協力お願いします。



気道の確保をして
人口呼吸



心臓マッサージ
「1・2・3・・・15」



編集後記

合併号を発刊してからはや3年がたちました。この広報『やまぐち』を山口地域のみなさまにいかにも楽しく読んでいただけるかと編集部一同いつも話し合っています。

広報やまぐち編集部 鈴木茂子